

「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」

便り vol. 2 9月9日は683回目

この人 AMさん



Aさんの語り口はとても穏やかで、爽やかだ。「ぜひ、ピラを手にとって見てください。今夜の家族のだんらんの時にもみんなで読んでみてください」と

語りかけ、その人の気持ちにはすべて声に出ると、深く辺野古の基地撤去を、反戦を訴えかける。歌もうたう。米軍基地を必要と思っている人でも、沖縄に基地が集中していることに疑問を感じている人は多い。いろいろな価値観や考えを持った人たちが大阪駅前を歩いている。それでも無関心な人が圧倒的に多いのだけれども、共

感をもってもらえる話と話し方を心がけていると話す。「沖縄のことはずっと気になっていた。沖縄に行っているうちに沖縄のことがずんずん好きになりました。離れられなくなりました。高江で、辺野古でみんなと一緒に座り込んで、そこで聞いた話を大阪行動でマイクで話すだけです」と少しはにかみながらAさんは言う。

「人と出会う楽しさと元気をもらっている」と、全国各地の平和行進にも参加し続けている。弱視のAさんは点字訳の仕事をしている。「右目は気がついたら見えていなかった。左目は歩く分には支障がないけど、目の前の人を紹介されても次に会った時に、その人の顔と名前を一致させることはむづかしい」という。大阪行動が終わった後、大阪駅前の雑踏のなかに消えていく姿に「大丈夫かいな」とつい、いらん心配をしてしまう。

編集委員 T



写真左：8月12日の大阪行動が終わって釜ヶ崎の夏まつりの初日に参加した。みんなで歌をうたった。



写真左：大阪行動女子、やさしく美しい『童神(わらびがみ)』を合唱。



写真左：車いすに「へのこ LOVE」のバナーをつけて、ピラとジュゴンの折り紙を大阪駅前を過ぎ行く人々に手渡すFさん。



写真右：「Oさんはオカリナをこの頃ふきませんねえ」と警備している人に言われて、ひとり譜面を広げてオカリナ演奏を復活させている。

毎週土曜日午後3時半から5時までの1時間半、JR大阪駅前で行っています。

今年も、たかつき保養キャンプに

ほんの少しボランティアで参加してきました。

七月二十九日から八月四日まで、いつものように高槻の行信教校というお坊さんの学校をかりて保養キャンプがありました。福島県、栃木県、群馬県から一七人の子どもたちと三人の保護者が来られました。

NPOみなとではカンプと例年どおり、澤田・辻がボランティア参加しました。

福島原発事故を解決したい政府のもとで、子どもたちの健康が危ぶまれて

います。これからも保養キャンプは続きます。「また来年ね」というのが年に一度のボランティアで顔を会わす人たちとの最後のあいさつです。



万博広場で記念撮影
編集委員 T